

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成22年 9月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

飼料作物

- トウモロコシの収穫適期が過ぎつつあります。収穫作業は速やかに進めましょう。
- 牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。
- ライ麦の播種適期となります。適期に播種を行い、播種後の鎮圧を確実にを行います。

乳牛

- 夏に受けた暑熱ストレスの影響が残っています。継続して低下した体力の回復に努めましょう。

1 トウモロコシの収穫・調製

今年度のトウモロコシは、高温の影響で収穫適期である黄熟期に達するのがかなり早まりました。すでに収穫適期を過ぎている圃場では、速やかに収穫しましょう。

- (1) 熟期が完熟期に近い場合は、子実が硬く、詰込水分がやや低くなりますので、収穫時の切断長を10mm未満とし、子実の消化を確保すると共にサイロへの詰込密度を高めます。
- (2) 過度の刈り遅れや、すす紋病、霜にあたったトウモロコシは、水分含量が低く、開封後、二次発酵が起りやすくなります。乳酸菌製剤・プロピオン酸などの添加剤の使用を検討しましょう。
- (3) 刈り遅れたトウモロコシでは圃場でカビが増殖している可能性があります。このサイレージを開封するときは、カビの有無をよく確認し、給与時には可能な限りカビは取り除くとともに、ビタミン給与量の増加や、カビ毒吸着剤の使用を検討しましょう。

2 草地管理 — 牧草の刈り取り危険帯 —

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、気温が低下し日が短くなる短日条件下では茎葉の成長がしだいに鈍化して、株や根の肥大へと移り、越冬の準備態勢に入ります。

この時期に刈り取ると、来春の生育に悪影響を及ぼしますので注意が必要です。

(1) 危険帯の時期

オーチャードグラスでは、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間が刈り取り危険帯の時期となります。

牧草が休眠に入る時期である日平均気温が5℃以下になるまでに、牧草の地下部に越冬のための貯蔵養分が蓄えられるよう、この時期の牧草の刈り取りは控えましょう。

なお、各地域の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃)と終わり(日平均気温5℃)の時期はおおよそ表の

	刈り取り危険帯の始まり (日平均気温 15℃)	終わり (牧草休眠) (日平均気温 5℃)
	平年値	平年値
奥 中 山	9月22日	11月 9日
久 慈	10月 4日	11月23日
盛 岡	10月 2日	11月18日
江 刺	10月 6日	11月21日
一 関	10月 8日	11月25日

(アメダス調べ)

とおりとなりますので、参考にしてください。

(表を見ると、日平均気温 15℃と 5℃の期間が 40 日以上ある地点がありますが、牧草が休眠する 5℃以下になるまでに牧草地下部に貯蔵養分が蓄えられればよいので、日平均気温が 15℃以下になってから 40 日以上刈り取りを控えればよいこととなります。)

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に窒素成分を供給すると、牧草は養分の蓄積作業を止め、分けつや成長を始めてしまいます。この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。窒素成分を多く含んだ堆肥の施用も避けましょう。

3 ライ麦の播種作業

トウモロコシの後作としてライ麦を栽培するポイントは以下の通りです。

(1) 播種は可能な限り早く行います

ライ麦の収量は、播種時期に大きく左右されます。平均気温が 15℃以下になったら、できるだけ早く播種しましょう。極端な遅まきは越冬性の悪化及び分けつ不良となり、更には翌春の収穫時期が遅くなるので注意しましょう。まだ播種が可能な県南で播種適期は 10 月初旬（1 日頃、限界 10 日）となります。

(2) 排水の良いほ場で栽培します

ライ麦をはじめ、麦類は湿害に弱いため、排水不良のほ場や雪解け水が溜まるようなほ場は避けます。

(3) 施肥は、窒素：リン酸：カリ＝8kg：3kg：8kg/10a を基本としますが、堆肥施用量が多い場合は減肥します。

(4) 播種後は必ずローラーをかけ、鎮圧を徹底します。

(5) 品種の選定

トウモロコシとライ麦の二毛作の場合、極早生、早生品種が適し、それ以降の品種は適しません。春一番（雪印種苗）や、キングライ麦（タキイ種苗）などを利用します。

4 乳牛

暑さは一段落しましたが、夏に受けた高温ストレスの影響は残っています。継続して低下した体力の回復に努めましょう。体力の回復には、採食量の確保が一番です。

(1) 観察と対応が特に必要な個体

8 月中旬にかけて分娩した牛、これから分娩を迎える牛で、特にも太っている牛、急激に痩せた牛はケトーシス、起立不能などの代謝障害に注意が必要です。また、分娩後の発情発現と受胎が不調になることも想定されます。

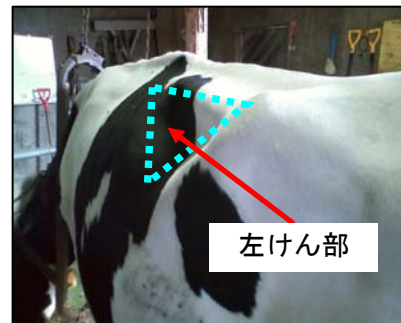
ア 左側の最後の肋骨の上部とその後ろの三角の部分（左けん部）が凹んでいないか？

イ 粗飼料の摂取量が落ち込んだことにより、反芻とルーメン機能が低下し、乳脂肪と無脂乳固形分が低下していないか？蹄や飛節を痛がっていないか？

ウ 負のエネルギーバランスのため、体脂肪動員が多く、ケトーシスの臨床症状を示していないか？乳脂肪率が異常に高くないか？

(2) 対策

嗜好性の高い粗飼料を十分給与して、採食量を確保します。必要に応じて、グリセリンの給与などによるエネルギーの充足を行いましょ。また、肝機能の低下を緩和するために、ビタミン飼料の強化やバイパスコリン等の給与により肝臓への中性脂肪の蓄積を防ぎましょ。



農作物技術情報第 8 号は 10 月 28 日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9 月 15 日～11 月 15 日は秋の農作業安全月間
農作業 慣れと油断が落とし穴 初心を忘れず 安全第一